

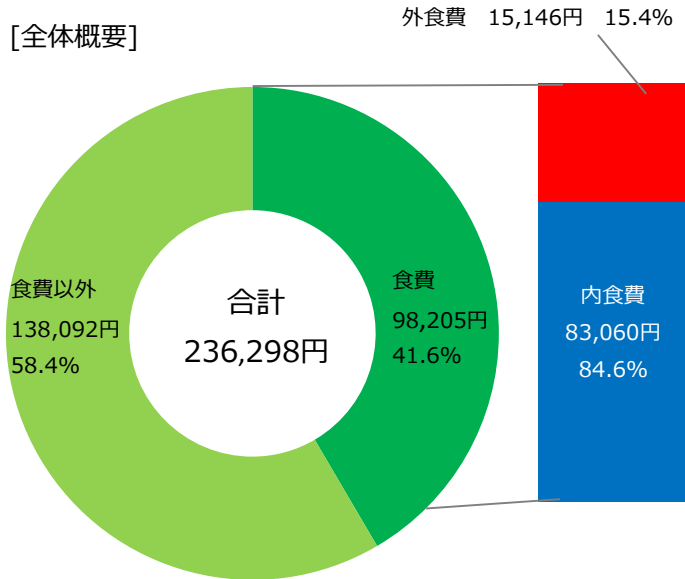
➤ Food Market

# MASTER PLAN

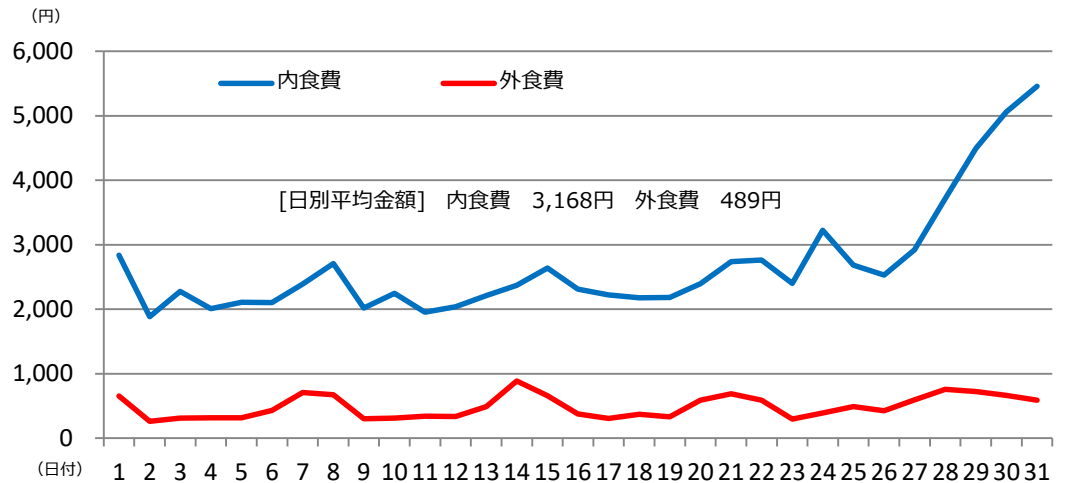
2020  
December

12

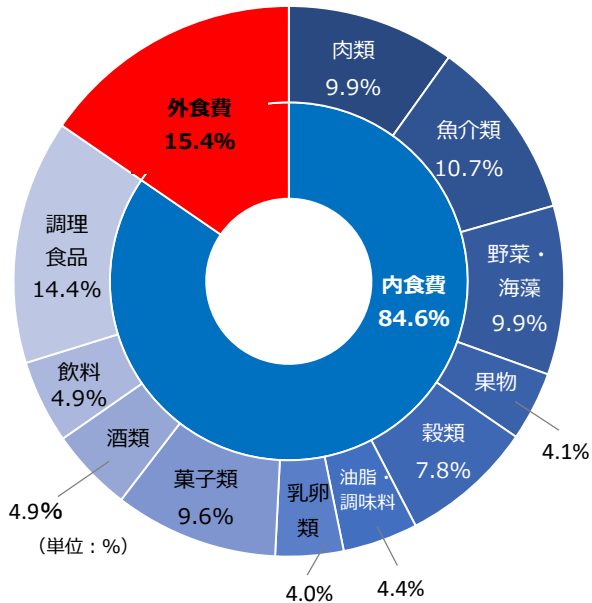
[全体概要]



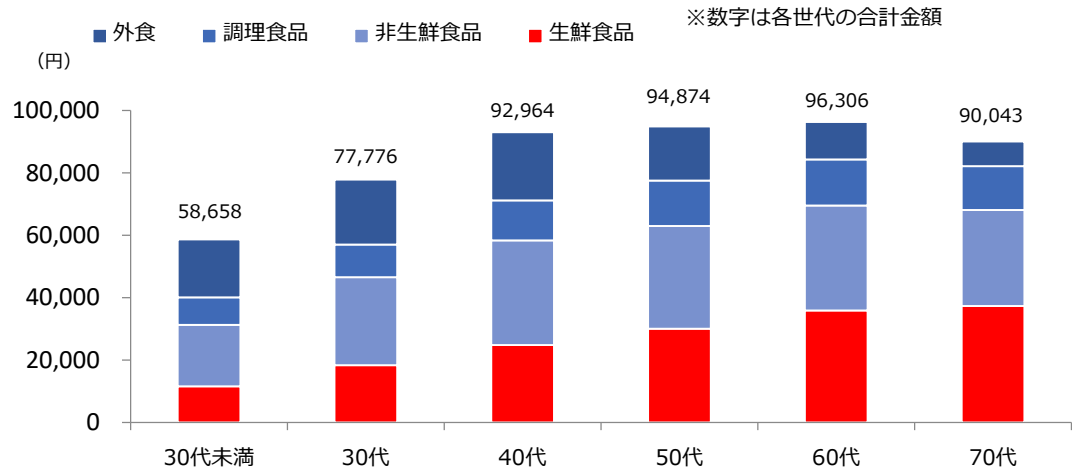
[内食費と外食費の比較]



[食料費の部門別構成比]



[世代別食料費構成]



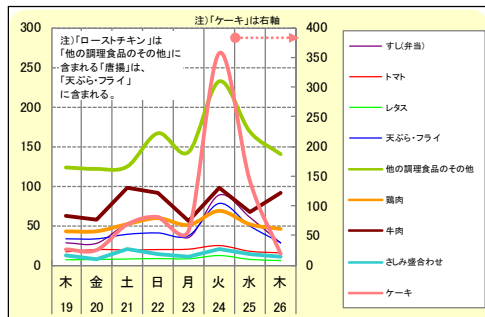
- ・生鮮食品 — 肉類、魚介類、野菜・海藻、果物
- ・非生鮮食品 — 穀類、乳卵類、油脂・調味料、菓子類、飲料、酒類
- ・調理食品 — 惣菜

※総務省家計消費支出参照



●昨年2019年の消費支出金額の推移より、月度の歳時記動向/季節動向の実態を読み込みます。(※グラフの単位は全て円)

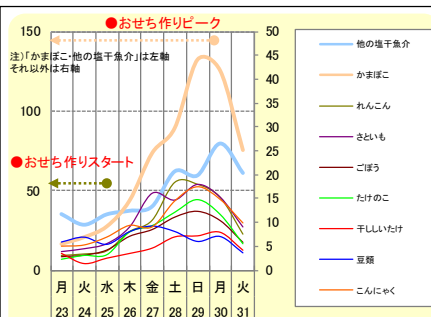
**クリスマス需要を再確認！**



**「23日祝日が無くなりクリスマス実施日に変化」**

太陰暦(ユダヤ歴)だった昔は日没が1日の始まりで、24日の日没からクリスマスが始まりました。そういう意味でケーキは24日のイブに圧倒的に消費されます。一昨年までは天皇誕生日の23日が祝日でしたので、23日から24日にかけてクリスマスパーティーが行われていましたが、23日の祝日が無くなり、24日のイブが週末と絡まなければ、24日にクリスマスパーティーが集中するようになると考えられます。今年2020年のイブ24日は木曜日です。

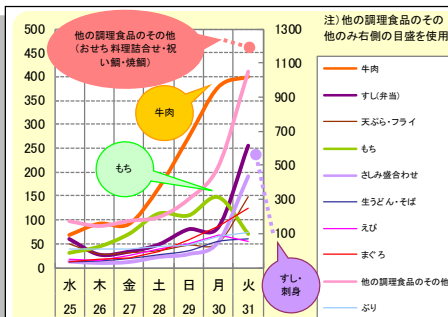
**おせち材料の消費伸長推移**



**「昨年のおせちづくり消費は、25日(水)から増え、ピークは29日(日)」**

昨年イブの24日が休日だったためクリスマスは24日に実施し、25日からはおせち作り。25日からはれんこんやさといも、ごぼうなどお節野菜が伸長し始めます。本格的に伸長するのは28日からです。おせちづくり材料商材は28日-30日が消費ピークとなります。

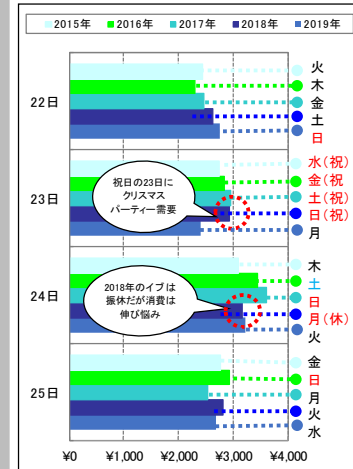
**年末「際」もの商材の伸長は**



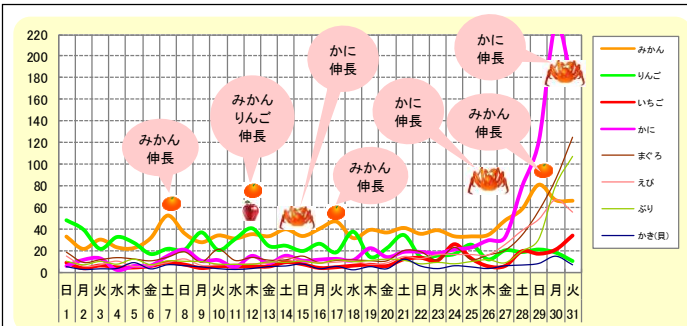
**「おせち・すし・刺身は31日(火)に集中」「牛肉・もち」は30日(月)がピーク**

迎春ニーズ(すし・刺身・おせち)は大晦日の売れ筋です。牛肉は28日(土)から売れており「正月休みが始まる年末の内からごちそうニーズ」が高まるようです。牛肉は30日が消費ピークなのでこれも年内消費の表れではないでしょうか。

**過去4か年のクリスマスの消費支出日別推移(曜日影響)**



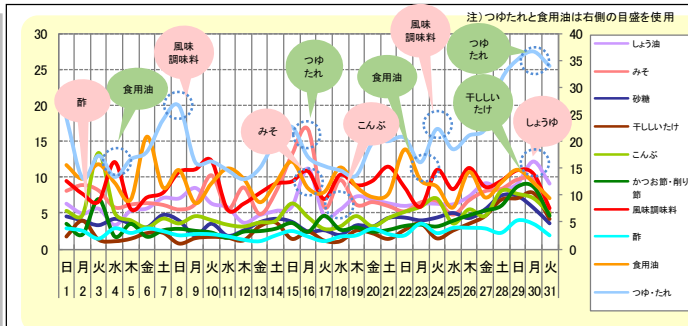
**12月の旬(生鮮商材)の動向は？**



**「果物は、みかん・りんごが消費の中心」「鮮魚は、鍋料理などでかにが伸長、年末の26日(木)から急伸張」**

12月にはボーナスサンデーやクリスマス、歳末などハレの食シーンが目立ちますが、気温低下とともに冬の旬商材も美味しくなります。(脂のる魚介類や味が濃くなる葉物野菜、晩成種の果物類など) 鍋の主役を彩る旬の生鮮食材(牡蠣・寒ぶり・かに)を家族の団らんの話題の中心にしてファミリーイベントを盛り上げましょう。

**基礎調味料は12月のうち、いつ頃売れる？**



**「おせちづくりや正月料理に必要な基礎調味料は「際」よりも前に用意」**

特に食用油や風味調味料、みそ等は特売の影響もあってか下旬や中旬で消費が高まっています。こんぶや干しいたけ等は下旬から消費が伸長していきます。つゆ・たれは鍋需要が週末に規則的にある事に加え、歳末需要としておせちづくりがスタートする頃から伸張し年末30日にピークがあります。

**過去4か年の歳末「際」の消費支出日別推移(曜日影響)**

